

高 齢 者 の て ん か ん に つ い て

てんかん（漢字で書くと「癲癇」）とは、大脳の神経細胞の過剰な興奮によって生じる、様々な症状のことを言います。

てんかんというと「全身を突っ張らせる、あるいはガクガク震わせる」イメージが強いかもしれませんが、しかし、その他にも「ぼーっとする」「言葉が出なくなる」「物が歪んで見える」「嫌な臭いがする」「同じ動きを繰り返す」など、様々な症状が起こりえます。「普段は何でもないので、急に様子がおかしくなる」のは、てんかん発作かもしれません。

てんかんの有病率は0.8%（人口千人あたり8人の患者がいる）と言われますが、65歳以上の高齢者に限ると有病率は1%を超えます。高齢者のてんかんには、若年期に発症し高齢化した例と、高齢期に発症した例があります。てんかんの発症というと小児期に多い印象があるかもしれませんが、高齢期には再び増加に転じます。これは、高齢になるにつれ脳卒中、認知症、頭部外傷など、発作の原因となる病気を持つ人の数が増えるためです。

高齢者の初発てんかん発作の原因として最も多いのが、脳卒中（脳出血や脳梗塞など）です。但し、脳のどの部位が障害されても発作を生じるわけではなく、基本的には大脳皮質（大脳の表面で、神経細胞が集まっているところ）を含む病変の場合に、発作を生じる可能性が出てきます。

診断には発作時の状況・症状が重要ですが、失神（血圧低下により脳血流が低下し、意識を失う）や一過性脳虚血発作（一時的に脳の血管が詰まり、症状が生じる。脳梗塞の前兆として重要）との区別が難しいことがあります。そのため血液検査、頭部CT・MRI撮影、心電図検査なども行います。脳波検査は重要ですが、発作がおさまっているときの脳波では異常が見つからない場合があります。一方、原因不明の意識障害が、脳波検査の結果てんかんと診断される場合もあります。

てんかん発作の急性期、また発作に伴う意識障害、呼吸障害などは、点滴による薬物投与や酸素投与などが必要な場合がありますが、再発予防の治療は内服薬の継続が基本になります。

高齢発症のてんかんは御本人が症状に気づきにくい場合もありますので、御家族や介護される方から見て気になる症状があれば、御相談ください。

（脳神経内科 科長 青山雅彦）



～図書紹介～

新刊図書の一部です



がん治療の現在
永山悦子

がん治療の情報は、基礎研究や臨床試験だけでなく、治療や商品の宣伝、怪しげな民間療法など。正しい情報を知り、生かすことが必要。



クスノキの番人
東野圭吾

その木に祈れば願いが叶うと言われるクスノキ。その番人を任された青年と木のもとへ祈念に訪れる人々の物語。



口の強化書
照山裕子

口が老いると栄養がうまく摂れない。それは、若々しく健康的な人生を過ごせるかどうかを決める、重要な分かれ道。



汝、星のごとく
風良ゆう

その愛はあまりにも切ない。正しさに縛られ愛に呪われ、それでも生きていく。自らを生きるしかない。



**最新医学で一番正しい
アトピーの治し方**
大塚篤司

著者が目指すものは、すべてのアトピー患者さんが「保湿するだけで」きれいな肌をキープできる状態です。



**ぼくはイエローでホワイトで、
ちょっとブルー**
ブレイディみかこ

英国のカトリック名門小学校に入学した息子が、中学は底辺中学を選んだ。毎日が事件の連続。ノンフィクション。

お勧めの一冊

ハーバードの研究者が教える脳が冴える 33 の習慣

皆さん、脳が冴える習慣がもしあるとしたら是非知りたいと思いませんか。

年齢を重ねるうちに、若い頃はもっと脳が冴えていたのに最近では前よりも脳の働きが遅くなったと感じることが増えていくように思います。

この本では理学療法士である著者が、ハーバード大学研究員として他の優秀な研究員たちと過ごしている中で発見した、脳が冴える習慣を 33 個紹介してくれています。どの方法も特別難しいことではなく、日常の考え方や気持ちの向け方を少し変えるだけで、すぐに実践可能です。

私もこの本を読んでできることから実践してみました。とても気分が明るくなり、気持ちが前向きになりました。

この本が紹介してくれている習慣は決してビジネス場面だけでなく、家庭や育児、学校生活などでも色々と応用ができそうな内容ばかりなので、目の前の課題が多く、不安を抱えている方には是非読んでいただきたい 1 冊です。



(リハビリテーション部 横地正伸)

【お知らせ】

会津まつりも終わり、最近では赤とんぼが青空を飛び交っている光景を目にします。秋を実感しつつも、これからの季節は体も冷えますので温かくしてお過ごしください。さて、当院のがん相談支援員は現在4名ですが、今後は相談員を増やし、皆さんの相談に対応できるよう配慮していきたいと考えています。また「あづまっぺ」は総合医療センター3階の患者図書室において「ガーベラの会」・「ウィッグ説明会」は、山鹿クリニック2階医師会サロンに場所を変更し毎月開催しておりますので、お気軽にご参加ください。ご不明な点がございましたらがん相談支援センターまでご連絡ください。

がん相談支援センター 古沢 (TEL:0242-29-9832)